

介護保険事業と気象庁の監視業務を視察

静岡県伊東市
東京都気象庁

平成25年11月27日～28日

伊東市は伊豆半島の相模灘に面した温泉が豊かな観光の市で、バブル期に建てられた市庁舎には、目を見張るものがあり、ロビーの様々なモニュメントにも驚いた。

市人口は約7万4千人程で財政規模約62億円と当町に比べて、人口は約5倍、財政規模は約6倍とそれだけに事業内容も大きい。

同市は高齢化率が非常に高く10月現在36%で月に0.1%ずつ上っていて、10年後には41.3%に達すると予測されて、現在もこれからも、高齢者福祉が重要な課題とされている。

また、当町の要介護者383名に対し、3千11人と7.8倍にあり、人口比較でも約1.5倍になる。市内介護サービス事業所は、居宅介護支援33、訪問介護21、通所介護27、その他関連する事業所は合せて14事業所あり、介護、予防サービスを行って

いる。

財政規模が大きいだけに、事業内容に余裕が感じられる。特色ある活動として「物忘れ相談シート」で、市内医療機関の協力を得て本格的に活用を目指している。その他、介護予防事業地域づくりの活動は当町も同様であるが、高齢化に伴う対策事業の展開は、本当に急ぐ必要性大と感じた。

2日目は、皇居九段坂下近くにある気象庁で、気象の監視体制、予測予報などの業務や地震、津波、火山の監視の状況を見学した。最新の技術・計器・器具類を目の当りにして驚く。約千人の職員が昼夜交代で監視測定を行っている。

後半は、軽井沢測候所で勤務されていた宮下氏の案内で、作業現場で作業している担当者が説明に当たってくれた。黒斑山の監視カメラで浅間山を映し出してく

れた。

最後に8月より運用された特別警報について説明を受けた。有意義な視察であった。

総務福祉文教常任委員長
池田 健一郎



最終処分場の再生事業と街中がせせらぎ事業を視察

湯河原町真鶴町衛生組合
静岡県三島市

平成25年11月25日～26日

湯河原町真鶴町衛生組合は、昭和62年4月から埋立容量6万6千m³を15年間の予定で埋め立てを始めた。

平成23年度はほぼ満杯になり延命化のためかさ上げを計画し、水質調査をしたところ基準値超のカドミウムが検出された。そのため埋め立て廃棄物をすべて撤去し、撤去後の処分場を再利用する処分場再生事業の実施が決定され、現在撤去作業が行われている。

再整備の基本構想として、屋根付きで容量7万m³の被覆型処分場とし、総工費45億円を見込んだ日本初の試みである。

静岡県三島市の街中がせせらぎ事業は、平成8年度の三島商工会議所50周年事業をきっかけとして、中心市街地にある歴史、文化、水辺や緑の自然環境といった「アメニティ資源」を活用し、それをネットワーク

する回遊ルートを整備することによって、周辺を快適な空間に造り上げ、「歩きたい街」、「住みたい街」を目指す魅力ある地域づくり事業である。

総事業費は、13億6千708万3千円で、整備期間は平成13年度～17年度の5年を要した。

美しいまちなみ大賞など多くの賞に輝き、せせらぎ協働体として30を超える団体が参加し、市民会議においては商工会議所・観光協会・自治会代表など120団体がある。市民会議年6回、現状報告会年6回と盛んな活動がされている。

街の水の仕掛けめぐりは22カ所あり、周遊すると1時間半のコースで我々委員会では30分コースを歩き視察した。



偶々、川の中を清掃する80歳前後の老婦人に会話をしたところ、ボランティアで普段から水を愛し感謝

町民建設経済常任委員長
小井土 哲雄

議会改革の取り組みを視察

神奈川県大磯町
1月28日～29日

大磯町は、神奈川県中部に位置し、気候は海岸沿いを流れる暖流の影響で温暖な土地で、町の人口は3万2千625人、町議会議員数は14名、そのうち女性議員が8名を占め、女性議員が占める割合は全国1位である。

大磯町議会は、議会基本条例を制定する以前から、ケーブルテレビによる議会中継・委員会等の公開・一般質問の一问一答方式・対面方式・質問回数削減の撤廃・会議録の公開(検索システム)の導入)など、議会改革に取り組んできた。

しかし、地方分権が進む中、町の自己決定・自己責任の範囲が拡大してくるに伴い、議会の担う意志決定機関・行政の監視機関としての責任と役割は、これまで以上に重要なものとなった。

この事を踏まえ、平成19年10月から、議会運営委員会を中心に検討を重ね、こ

れまで積み重ねてきた議会改革を基礎に、更に公正で透明な開かれた議会を構築する為に議会運営の基本事項を定め、議会の役割と活動の方針を明らかにした議会基本条例が平成21年7月に制定され、同年11月より施行された。

年4回行う議会報告会では、4年経過する中で参加者が固定化してきている。情報公開が原則とすることで常任委員会、全員協議会など全てが完全公開されている。

一般会議として、消費者団体や建設協会との意見交換も行われ、議案や議員ごとの賛否結果をホームページに掲載するなど、議会改革が進められた。

基本条例にもある政策立案の推進は、条例制定に向け取り組んでいる。今回の視察研修を通して、御代田町議会運営委員会でも議会改革を進めるために十分協議し、町民の皆様に

開かれた議会になる様に情報公開を進め、二元代表制の本分である議会と執行機関がより一層切磋琢磨するよう、各種研修を通して議員のレベルアップを図り、町民の負託に応えられる様に努力して行きたい。

議会運営委員長
内堀 恵人



より一層親しまれる議会だよりをめざして

箕輪町・松川町
1月20日～21日

箕輪町は人口2万5千373人、議会だより発行数は7千部、委員は、議長指名による5名で、議員自らの原稿による編集を行ない、「です、ます」調でオールカラー印刷が基本方針とされてきた。

1回の発行に4日間の編集時間をあて、それぞれの委員の特徴を生かし、文章を書く人、写真を撮る人と分担し、写真も生活感がでるよう接写に心がけているとのことである。

今年の1月号からは、議会の採決の結果を掲載しはじめ、議会情報の完全公開に努力されていた。

松川町は、人口1万3千515人、発行部数4千500部、委員は、互選で一期生は必ず委員になり、7名。

編集の基本方針は、議会だ何を活かしたのか、結果はどうなったのか、広報との差別化をはかるのと。町政に関心をいだかせ

るような見出しに力を入れ読み手をひきつける工夫がされ、用語もわかりやすい表記に徹底されていた。ページによって「です、ます」調、「である」調を使い分けていた。一般質問はひとり一ページをとり、全体のページ数は22ページで翌月の12日発行とのことである。

当町と同じく、表・裏表紙はカラーだが、中面は1色なので、今後は2色刷りにして行きたいとのことである。

議会の採決結果は、賛否の分かれた議案のみを掲載していた。

県下でも議会報に力を入れ、議員自らが徹底した編集を行っている両町の編集は、とても参考になった。今後の紙面づくりに大いに活用して行きたい。意見交流もでき非常に実りある視察であった。

議会だより編集委員長
市村 千恵子

